

日本気象学会

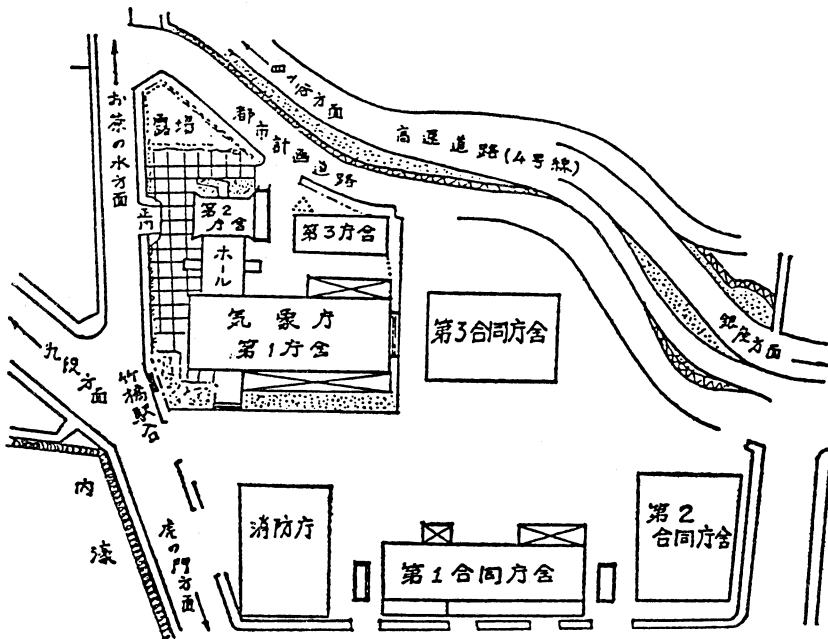
平成2年度春季大会

会期：平成2年5月23日（水），24日（木），25日（金）
 会場：気象庁（東京都千代田区大手町 1-3-4）
 電話（03）212-8341

目次

会場案内	273
大会行事予定表	274
総会次第	274
研究発表内容一覧表	275
シンポジウム内容	276
研究発表題目	277～286

会場案内図



（道順）地下鉄東西線竹橋駅下車がもっとも便利です。

大会行事予定

1. 会場：気象庁（電話 03-212-8341）
 A会場：2階講堂
 B会場：5階第1会議室
 C会場：8階東京管区会議室
 ポスター・セッション：2階ロビー
2. 会期：5月23日（水）、24日（木）、25日（金）

行事			
大会（研究発表）	（A, B, C会場）	5月23日（水）	9:00～12:30 13:30～16:00
大会（ポスター・セッション概要紹介）	（A会場）		16:10～16:30
大会（ポスター・セッション）	（2階ロビー）		16:30～17:30
大会（研究発表）	（A, B, C会場）	5月24日（木）	9:00～12:00
総会・学会賞・藤原賞授与	（A会場）		13:00～14:00
学会賞・藤原賞受賞記念講演	（A会場）		14:00～15:15
シンポジウム	（A会場）		15:30～17:30
懇親会	（第3合同庁舎地下）		18:00～20:00
大会（研究発表）	（A, B, C会場）	5月25日（金）	9:00～12:30 13:30～17:30

総会次第

1. 開会の辞
 2. 議長選出
 3. 理事長挨拶
 4. 学会賞授与
 5. 藤原賞授与
 6. 平成元年度事業経過報告
 7. 平成元年度会計決算報告
 8. 平成元年度会計監査報告
 9. 平成2年度事業計画案・予算案の審議
 10. 会員の種別の改正及びそれに関する定款及び細則の一部改正について
 11. その他
 12. 閉会の辞
- なお、総会に引き続き学会賞受賞記念講演および藤原賞受賞記念講演を行う。

平成2年度春季大会

() は講演数 (第1種—第2種と講演番号), — は座長

		A 会 場	B 会 場	C 会 場
5月23日 (水)	9:00~ 12:30	熱帯気象 (10-7, A101~A117) —中澤哲夫—	エアロゾル (4-6, B101~B110) —伊藤朋之一— 観測手法 I (4-3, B111~B117) —横山辰夫—	気象力学 (7-9, C101~C116) —向川 均—
	13:30~ 16:00	台風, 総観・中小規模現象 I (9-5, A151~A164) —岡村博文—	観測手法 II (6-0, B151~B156) —内山明博— 放射 (7-4, B157~B167) —高島 勉—	中層大気 (6-4, C151~C160) —津田敏隆—
	16:10~ 17:30	ポスター・セッション (概要紹介後講演) (P101~P119)		
5月24日 (木)	9:00~ 12:00	総観・中小規模現象 II (12-6, A201~A218) —栗原和夫—	大気大循環 (10-6, B201~B216) —千葉 長—	大気化学 (7-8, C201~C215) —近藤 豊—
	13:00~ 15:15	総会 学会賞・藤原賞受賞記念講演		
	15:30~ 17:30	シンポジウム 地球システムの風景—気候と共存するサブ・システムをめぐって—		
5月25日 (金)	9:00~ 12:30	いろいろな QBO (13-6, A301~A319) —田中 浩— —山崎孝治—	雲物理・積雲対流 I (4-10, B301~B314) —田畑 明—	接地境界層・小気候 (10-8, C301~C318) —大滝英治—
	13:30~ 17:30	気候 (14-8, A351~A372) —上野達雄— —安成哲三—	雲物理・積雲対流 II (9-10, B351~B369) —遊馬芳雄— —水野 量—	エクマン境界層 (7-4, C351~C361) —大河内康正— 局地循環 (10-3, C362~C374) —瀬上哲秀—

発表件数 275 件 (第1種講演 149, 第2種講演 107, ポスター 19)

講演発表者へのお知らせ

1. A, B, C会場ともオーバーヘッド・プロジェクター使用可能です。
2. 講演および質疑時間は, 第1種講演はそれぞれ5分と2分以内, 第2種講演は10分と5分以内です。
3. スライドのマウントに番号をつけ, 上下をそろえて下さい。
4. ポスター・セッションの方法については「天気」12月号 (p. 758) を参照して下さい。

またポスターに表題と発表名を明記して下さい。なお, 今回は件数が多いので概要紹介は1件1分以内
でお願いします。

シンポジウム「地球システムの風景——気候と共存する サブ・システムをめぐって——」

日 時：大会第2日（5月24日）15：30～17：30

会 場：A会場（気象庁講堂）

座 長：木田秀次（気研・応用）

話題提供者

及川武久（筑波大・生物科学）：陸上生態系

寺崎 誠（東大・海洋研）：海洋プランクトン

土器屋由紀子（気大）・犬伏和之（三重大）：土壌・大気のカス交換

福田正己（北大・低温研）：永久凍土と気候

最後に総合討論を行う

「南極シンポジウム」のお知らせ

大会の前日に下記のシンポジウムを開催いたします。
興味のある方はご自由にご参加下さい。このシンポジウムの趣旨については、天気、37、2月号、p. 128(1990)を参照願います。

シンポジウム「地球気候における南極氷床の役割」

主 催：日本気象学会

共 催：日本雪氷学会、日本地球化学会、日本地理学会

日 時：1990年（平成2年）5月22日（火）10：00～17：00

場 所：気象庁講堂

プログラム

<10：00～10：15>

① 開会の辞 松野太郎（東大・理）

<10：15～12：00>

② 南極氷床の歴史と氷期問題
岩田修二（三重大・人文）

③ 南極氷床の大気循環に与える影響
鬼頭昭雄（気象研・気候）
井上治郎（京大・防災研）

④ 南極氷床と CO₂ 問題
田中正之（東北大・理）

<13：00～14：45>

- ⑤ 南極上空での物質循環と輸送
岩坂泰信（名大・空電研）
山崎孝治（気象研・気候）
- ⑥ 南極氷床上での物質の堆積・輸送過程と氷床の流動
神山孝吉（京大・理）
中尾正義（国立防災センター・長岡雪氷防災研）

⑦ 氷床コアによる古環境・古気候の復元
藤井理行（国立極地研）

<15：00～17：00>

⑧ 総合討論（司会）安成哲三（筑波大・地球）

<18：00～20：00>

懇親会

連絡先：日本気象学会・極域研究連絡会
本シンポジウム担当幹事 安成哲三
〒305 茨城県つくば市天王台
筑波大学地球科学系
Tel. 0298-53-4399
Fax. 0298-51-9764

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作人自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

大会第1日(5月23日) 9時00分~12時30分

A会場 熱帯気象

座長 中澤哲夫(気研・台風)

- A101. 森島 濟(都立大・地理): 熱帯対流活動の強化と日本付近の亜熱帯高気圧形成の連関について
- A102. 大沢和裕(気象衛星センター): GMS 雲量偏差の順位相関解析
- A103. 高薮 縁(国立公害研): 雲クラスターの分布に関する統計的解析
- *A104. 井上豊志郎(気研・台風): 西太平洋における対流活動と海面水温・水蒸気量について
- A105. *高橋清利・村上勝人(気研・台風): GMS および GOES 赤外データによる汎太平洋域における雲域変動の解析——1982/83 El Nino——
- A106. 山崎信雄(気研・台風): 太平洋高気圧の季節内変動(第2報)
- *A107. 西 憲敬(京大・理・気候): 熱帯域30—60日変動の活動度の変化について(3)
- *A108. 中澤哲夫(気研・台風): 季節内変動の位相は季節に固定されている——季節内変動の気候学的考察——
- A109. *冨田智彦・安成哲三(筑波大・地球科学): エルニーニョ・ラニーニャ振動における2年越しエルニーニョ
- A110. *謝 高平・久保川 厚(東北大・理): 2-レベル湿潤大気モデルに現れる東進モード及びその SST anomaly への応答
- *A111. *伊藤久徳(和歌山大・教育), 西 憲敬(京大・理・気候): 季節内変動の構造に関する考察
- *A112. 吉崎正憲(東大・海洋研): 赤道域において positive-only wave CISK でできる孤立した大規模対流系の西進・東進について: 線型論
- *A113. 住 明正(東大・理): 熱帯域の積雲活動域のふるまいについて
- *A114. 鬼頭昭雄(気研・気候): GCM 中の夏のモンスーン振動について
- A115. 杉 正人(気研・気候): 1988年夏の長期予報実験(2)
- A116. 木本昌秀・*吉川郁夫(気象庁・数値予報): NPD 大気海洋結合モデル「空海」による予報実験
- A117. 時岡達志・遠藤昌宏・*長井嗣信・北村佳照(気

研): MRI 大気海洋結合モデルのふるまい——モデル気候値の改良——

B会場 エアロゾル

座長 伊藤朋之(高層気象台)

- *B101. *岡田菊夫(気研・応用), 田中豊顕(気大), 成瀬 弘・吉川友章(気研・応用): nucleation scavenging の効率の測定(Ⅲ)
- B102. 銭 公望・田中 浩(名大・水圏研): 二重薄膜上で検出されるサテライト構造をもつ沿岸大気の粒子
- B103. *石坂 隆・銭 公望(名大・水圏研): 山岳におけるエアロゾルと霧粒1個1個の化学組成の比較
- B104. *岡田菊夫(気研・応用), 大畑哲夫・古川晶雄(名大・水圏研): チベットの高原に浮遊するエアロゾル粒子について
- *B105. *大倉誠司(北大・環境), 菊地勝弘・谷口 恭(北大・理): 下層大気中におけるエアロゾル粒子の空間的挙動
- *B106. 池上三和子・岡田菊夫・財前祐二(気研): 中部対流圏におけるエアロゾル粒子の緯度分布(0°~34°N)
- *B107. *高島英之(筑波大), 内野 修・田端 功(気研・衛星観測): YAG ライダーで観測した成層圏・自由対流圏エアロゾル
- *B108. *谷口 恭・上田 博・菊地勝弘(北大・理): 低温型雪結晶と極域エアロゾル(グリーンランド・プロジェクト: その3——エアロゾル数濃度の変動——)
- *B109. *岩坂泰信(名大・空電研), 林 政彦(名大・水圏研), 岡田菊夫(気研・応用), 近藤 豊(名大・空電研), 大和政彦・古賀聖治(名大・水圏研), 小口 高(名大・空電研), 近藤幸治(高層気象台), P. Aymedieu(CNRS), W.A. Matthews (DSIR): 冬の北極成層圏の硝酸エアロゾルの鉛直分布——北極オゾン層国際共同気球観測——
- B110. *田中 浩・太田正樹・牛丸真司(名大・水圏研): 極成層圏雲の数値シミュレーション観測手法 I

座長 横山辰夫(福岡管区)

- B111. *片岡 毅・生野元昭・堀 晃浩(福岡西総合環

- 境センター), 小南寛彦・赤野 徹(関西電力(株)): 複雑地形におけるドップラーソーダーを用いた風の観測(固定反射(グラウンドクラッター)の除去手法について)
- B112. 横山辰夫(福岡管区): レーダービームの地形によるカットとレーダー雨量係数の関係
- *B113. *M.F. Larsen(京大・超高層), J. Röttger(EISCAT, Sweden), 深尾昌一郎(京大・超高層): VHF RADAR MEASUREMENTS OF REFRACTIVITY LAYER TILT ANGLES AND ASSOCIATED VERTICAL-BEAM RADIAL VELOCITY CORRECTIONS
- B114. *中村健治・浦塚清峰(通信総研): 航空機搭載レーダによる海面と降雨の観測——パルス毎の受信電力の変動——
- *B115. *青柳二郎・鈴木 修・大野久雄(気研・衛星観測): 標本数によるドップラーレーダデータの精度
- *B116. *鈴木 修・青柳二郎・大野久雄(気研・衛星観測): 2つの繰り返し周波数を使ったドップラー速度折り返し補正について
- B117. 柴田 隆・石津美津雄・板部敏和(通信総研): 風向・風速測定用コヒーレントライダー
- C会場 気象力学**
- 座長 向川 均(気大)
- C101. 酒井 敏(京大・教養): Rossby 循環における流体粒子の子午面循環
- C102. *丁 亨斌・木村竜治・三沢信彦・森 厚(東大・海洋研): 地表面の冷却によって生じる大気循環の流体実験(第6報)(軸対称の流れについて)
- C103. *森 厚・木村竜治・三沢信彦・石川浩治・丁 亨斌(東大・海洋研): 地表面の冷却によ
- って生じる大気循環の流体実験(第7報)——不安定波の特徴——
- *C104. *宇加治一雄(ケンブリッジ大・応用数学理論物理), 玉木克美(福岡大・理): Tilted-trough vacillation の数値シミュレーション
- *C105. *菅田誠治・余田成男(京大・理): 高プラントル数流体を用いた回転水槽実験の数値的研究
- C106. *三村和男・馬銅野博之・森林則子(東海大・教養): 極渦の反転実験
- *C107. 松田佳久・*高野洋雄(気大): 傾圧不安定な場におけるロスビー波の伝播
- *C108. *加藤輝之(気象庁・海上気象), 松田佳久(気大): 定常熱源と基本場の鉛直シアーによる順圧モードの励起と伝播
- *C109. 小出 孝・千葉 長(気研): 球面上の発散性2次元乱流の数値実験
- C110. *向川 均(東京管区), 木本昌秀(気象庁・数値予報), 余田成男(京大・理): ローレンツシステムにおける誤差成長の局所的性質
- *C111. 木本昌秀(UCLA; 気象庁・数値予報), 向川均(東京管区), *余田成男(京大・理): 中期予報スキルの変動と流れの不安定性について
- *C112. 金久博忠(気大): Equivalent-Barotropic Modes の線形 Norm 安定性
- *C113. 猪川元興(気研・予報): 多層成層流体中の定常静水圧山岳波の弱非線形理論
- *C114. *小林茂樹(名大・理), 阿部 豊(名大・水圏研), 深尾良夫(名大・理): 不混和二相の重力分離に伴う流体運動(1)線形解析
- C115. 中井正則(東大・工): Plume における2次渦度
- C116. *岩朝美晴・阿部 豊(名大・水圏研): 放射対流平衡の「直接」計算(1)序報

大会第1日(5月23日)13時30分~16時00分

A会場 台風, 総観・中小規模現象 I

座長 岡村博文(気研・台風)

- A151. 阿部成雄(防大・地球科学): 台風の非対称性と移動
- A152. 岡村博文(気研・台風): T8913 内の2個の渦中心
- A153. *岡村博文・田畑 明・山崎信雄・高橋清利(気研・台風): T8922 北西象限の気圧変動

- *A154. 佐藤 薫(京大・理): MU レーダーで観測された台風に伴う小規模擾乱
- A155. 牛山素行(信州大・農): 雨氷現象発生日の気象状況について——第1報: 1989年2月25, 26日長野県東信地区に於ける事例解析——
- A156. *高橋 亨・阿部成雄・遠峰菊郎・塩田修弘(防大・地球科学): 千歳, 三沢両飛行場にほぼ同時に発生する霧について

- *A 157. *米谷恒春 (国立防災センター), 和泉 清・井上正之 (東京都土木研): 地上の水蒸気収束量と集中豪雨発生との関係について
- A 158. 栗原幸雄 (東京管区): 関東・中部地域における熱雷に伴うレーダーエコー発現の地域特性
- A 159. 戸塚晶子 (東京管区): 富士山レーダーによる小規模じょう乱の解析——発生——
- A 160. 須田芳彦 (都立大・地理): 上陸に伴う降水雲の形態変化
- *A 161. *若松英寿 (北大・環境), 播磨屋敏生 (北大・理): 中規模雲群に伴う降雨の解析
- *A 162. *遊馬芳雄 (弘前大・理), 高橋 勲 (九大・理): 3次元モデルを用いた熱帯積雲の降水機構
- A 163. *張 泉湧・吉崎正憲 (東大・海洋研): COPT 81で見られた熱帯スコールラインの数値シミュレーション: 2次元と3次元の比較
- *A 164. H.-N.S. Chen (NASA), R.B. Wilhelmson (イリノイ大), *小倉義光 (気象協会): 熱帯のスコールラインと降雨バンドの三次元モデリング

B会場 観測手法II

座長 内山明博 (気研・気候)

- B 151. *寺田浩一郎 (電総研), 近藤新吾 (英弘精機㈱): 簡易化した模擬太陽移動システムを用いた回転式日照計の誤差について
- B 152. *塩原匡貴・浅野正二 (気研・気候), 五十嵐守・深井智亜樹 (気象庁・測器工場): シリコン・ドーム型赤外放射計の検定黒体槽の開発とドーム効果の定量化
- B 153. *高山陽三・内野 修・水野芳成・田端 功 (気研・衛星観測): ライダー・赤外放射計による雲の放射率観測
- B 154. *下田昭郎 (筑波大・環境), 横田達也 (国立公害研), 河村 武 (筑波大・環境): 衛星センサー ILAS の多重バンドシミュレーションデータからの吸収気体濃度推定に関する予備検討
- B 155. *松本雅雄・高崎重幸・土屋 清 (千葉大・映像隔測研究センター): 水蒸気吸収帯の人工衛星観測データによる上層可降水量の推定
- B 156. 木津昭一・川村 宏 (東北大・理): GMS-VIS SR データを用いた広域海面における短波放射量の評価に関する研究

放射

座長 高島 勉 (気研・衛星観測)

- B 157. 廣野幹彦 (新潟大・工): NO の吸収帯強度と吸収線型
- B 158. *深堀正志・青木忠生 (気研・物理): 炭酸ガスレーザーによる水蒸気連続吸収帯の測定
- *B 159. 佐々木秀行 (気象衛星センター): GMS で推定した全天日射量の日積算値の評価
- B 160. *伊藤朋之・上野丈夫・梶原良一・下道正則・上窪哲郎・伊藤真人・小林正人 (高層気象台): プリューワー分光光度計による紫外域日射スペクトル観測
- B 161. 内野 修・水野芳成・田端 功・高山陽三 (気研・衛星観測), 阿保 真・長澤親生 (都立大・工): ECLIPS (I)——気象研における概要——
- B 162. *青木輝夫 (気研・物理), 山内 恭 (極地研): 南極における雲の放射効果
- *B 163. 田中正之・早坂忠裕・谷津昌洋 (東北大・理): 不均質雲の放射特性について
- B 164. *浅野正二・塩原匡貴 (気研・気候): 多波長フラックス反射率測定による雲物理パラメタの推定
- *B 165. *塩原匡貴・浅野正二・真野裕三・内山明博・松尾敬世 (気研), 田中豊頭 (気大): 層状雲の放射特性の航空機観測(II)——1989年3月の2機同期観測——
- *B 166. *真野裕三・内山明博・塩原匡貴・浅野正二 (気研・気候): NOAA/AVHRR/CH3 による雲のリモートセンシング
- B 167. *真野裕三・塩原匡貴 (気研・気候): 小規模積雲群の放射特性について

C会場 中層大気

座長 津田敏隆 (京大・超高層)

- *C 151. *津田敏隆・村山泰啓・中村卓司・山本 衛・加藤 進・深尾昌一郎 (京大・超高層): MU レーダーで観測された中層大気中の重力波活動度の季節変化
- C 152. *廣田 勇・矢野淳子・佐藤 薫 (京大・理): MU レーダーで観測された鉛直風周波数スペクトルの夏と冬の比較
- C 153. 佐藤 薫 (京大・理): MU レーダーで観測される亜熱帯西風ジェット付近の鉛直スケールの小さな擾乱

- C154. 中根英昭・笹野泰弘・杉本伸夫・林田佐智子・松井一郎・湊 淳 (国立公害研) : NIESレーダーライダーによるDYANA (国際中層大気観測計画) 期間中の気温鉛直分布の観測 (速報)
- C155. *竹内延夫・鈴木 陸 (国立公害研), 内山弘美・河村 武 (筑波大) : TOMS データと地上データによる成層圏オゾン沈降の事例解析
- *C156. *桜井隆博・塩谷雅人・廣田 勇 (京大・理) : SBUV オゾンデータに見られる赤道波について
- *C157. 柴田清孝 (気研・気候) : 成層圏の RADIATIVELY DETERMINED TEMPERATURE
- C158. 佐々木 徹 (気研・物理) : 成層圏2次元放射力学モデルによる循環と気温の計算
- *C159. 牛丸真司 (名大・水圏研) : Vacillation サイクルにおけるプラネタリー波の非線形相互作用の役割
- C160. *千葉 長・柴田清孝 (気研・気候) : モデル大気にみられる熱的大気潮汐

大会第1日 (5月23日) 16時10分~16時30分

ポスター・セッション概要紹介

- P101. 中国山地の霧研究グループ (*宮田賢二・川尻正子・野中珠紀・吉田ゆかり (広島女大), 西岡佐喜子 (大阪管区), 尾崎友亮・高山 大・庄地光紀・依岡幸広 (広島地台)), 後藤邦昭 (三次高) : 中国山地の霧の研究 (4) (三次盆地の霧の広域観測結果)
- P102. *高橋忠司 (埼玉大・教育), 西川正己 (川越高) : 飯盛山で見た蜃気楼
- P103. 里村雄彦 (気研・応用) : 曲線座標を用いた数値モデル (2) 三次元モデル
- P104. *高橋俊二・木村富士男 (気研・応用), 鈴木基雄 (気象協会) : 都市気候を表現する数値モデルの開発
- P105. *田畑 明・赤枝健治・石原正仁・榊原 均 (気研・台風), 中沢 栄 (網走地台) : 1987年7月31日東京都で発生したダウンバースト
- P106. 川島茂人 (農環研) : アメダスデータの動的表示による局地気象の解析
- P107. *藤吉康志・大井正行・若濱五郎 (北大・低温研) : レーダエコーの3次元立体表示
- P108. *猪川元興・水野 量 (気研), 気象研・降雪機構研究グループ : 3次元モデルによる対流性降雪雲の数値実験 (その1)
- P109. *山田芳則・榊原 均・赤枝健治・石原正仁 (気研), 藤吉康志・坪木和久・佐藤晋介 (北大・低温研) : 降雪雲の3次元構造
- P110. *中島映至 (東北大・理), M.D. King (NASA/GSFC), R.F. Radke (Washington 大) : 雲からの反射光を利用した雲微物理量の推定
- P111. 栗田 進 (気研・応用) : 対流圏上部に現れた地形性の渦状積雲の列
- P112. *三浦和彦・熊倉俊郎・関川俊男 (東京理大・理) : 地球規模でのバックグラウンドエロゾルの水平分布と大陸性エロゾルの影響 (その1)
- P113. 佐藤信夫・*馬淵和雄 (気象庁・数値予報) : 一次元生物圏モデルを用いた, 全球的積雪深分布の診断——序報——
- P114. 劉 発華 (筑波大・地球科学) : 北半球対流圏における逆転層の気候学的研究
- P115. *増田耕一・松野太郎 (東大・理), 時岡達志・野田 彰 (気研・気候) : 二酸化炭素濃度に対する気候モデルの応答——東アジアに注目したモデル間の比較——
- P116. 森 一正・*丸山健人 (気研・予報) : レーダ, GMS データを使った, メソスケール熱帯擾乱の解析——1989年6月, 啓風丸西部熱帯太平洋域観測航海データを利用して——
- P117. 田中 実 (気研・予報) : GMS 上層雲量による東南アジア地域におけるモンスーン開始の年々変動
- P118. 二階堂義信 (気研・予報) : 対流圏における中緯度と熱帯の物質拡散の違い
- P119. *沼口 敦・林 祥介 (東大・理) : 水惑星モデルでの熱帯域の降水のふるまいについて

大会第2日(5月24日) 9時00分~12時00分

A会場 総観・中小規模現象II

座長 栗原和夫(気象庁・数値予報)

- A201. 野口晋孝(気研・予報): エキスパートシステムによる北東気流型悪天域の分類
- *A202. *浦野 明・中村晃三・浅井富雄(東大・海洋研): やませ発生時における海上の下層雲の役割——1988年7月の事例を中心にして——
- A203. 伊藤 敏・小司慎教・浅沼幸喜(東京管区): 中部・関東領域における前線通過時の風速場の特性
- A204. 渡辺 明(福島大・教育): 強風を伴う cloud band 付近の大気運動
- A205. *藤部文昭・露木 義・三角幸夫・赤枝健治・島津好男・榊原 均・田畑 明・石原正仁・大野久雄・鈴木 修(気研): 台風8922通過時に成田空港で起こった寒気突風
- *A206. *大野久雄・鈴木 修・青柳二郎(気研・衛星観測): 単ドップラーレーダによる晴天低層ウインドシャワーの検出と追跡(1)——台風一過、筑波における北西風の急増——
- A207. *鈴木 修・大野久雄・青柳二郎(気研・衛星観測): 単ドップラーレーダによる晴天低層ウインドシャワーの検出と追跡(2)——筑波に南西風の急増をもたらした風のシャワーライン——
- A208. *荻澤 浩・大野久雄・鈴木 修(気研・衛星観測): 離着陸時の航空機に影響を与える低層風の急変
- A209. 青梨和正(気研・予報): 局地モデルの初期化への降水情報の利用の試み
- A210. 高野 功(気象庁・数値予報): 非断熱の効果を含む非線形ノーマルモードイニシャリゼーションの局地モデルへの適用
- A211. 平沢正信(気研・予報): 梅雨期の西端の動きが遅い帯状雲系と総観場の関係
- A212. *栗原和夫(気象庁・数値予報), 大野久雄・永井智広(気研・衛星観測): 高分解能数値モデルによる梅雨時の『軸が前方に傾いた低気圧』の予報実験
- A213. *小倉義光(気象協会), H.M. Henry Juang(NMC): カナダで急速に発達した温帯低気圧: 解析とシミュレーション

- *A214. *西澤慶一・田中正之(東北大・理): 前線の形成に関する三次元数値実験(1)——乾燥大気の場合——
- *A215. 二宮洸三(札幌管区), 星野 薫(福井地台): Polar Low (meso- α -scale) 内の meso- β -scale low
- A216. 若原勝二・*大窪 浩・山下龍平・菅原 聡(札幌管区): 1990年1月23日から27日かけて北海道西岸に発生した小低気圧の事例解析(第1報)(啓風丸, 及び高風丸等の資料による)
- *A217. *小林文明・菊地勝弘(北大・理): 北海道西岸の帯状収束雲の形成過程——Coastal frontとしての見方——
- *A218. *佐々木秀孝・里村雄彦(気研・応用): 冬期北海道西岸に形成される収束雲の数値実験

B会場 大気大循環

座長 千葉 長(気研・気候)

- B201. 齊藤隆幸(埼玉工大): プロッキング・パターンの形成過程について
- B202. 藤井盛澄(大阪電通大): 発散循環の変動とJet流の消長について
- *B203. *大和田道雄(愛知教育大・地理), 山田光範(愛知教育大・院): 本邦付近における東西循環の経年変動について
- B204. *岡田 格(筑波大・院), 安成哲三(筑波大・地球科学), 内藤勲夫(国立天文台): 季節内変動の時間スケールにおける地球の極運動の維持機構 I. 極運動の周波数特性
- B205. 渡部文雄(気象庁・長期予報): 熱帯域対流活動の季節内変動と日本付近の循環場
- *B206. *河原幹雄・林 久美(気象庁・長期予報): 熱帯の季節内変動と日本付近の循環場(冬期)
- B207. 宮崎保彦(気象庁・長期予報): 冬季の熱帯の海水温と日本の天候
- *B208. 新田 勲(気象庁・長期予報): 1988/89の暖冬と熱帯の対流活動
- B209. 加藤内蔵進(名大・水圏研): 日本付近の前線帯周辺の大気循環場の季節特性(南風侵入過程)
- B210. 加藤内蔵進(名大・水圏研): 中国乾燥地域付近の大気成層と循環場の季節変化(その2)
- *B211. 二階堂義信(気研・予報): 夏半球の亜熱帯高

気圧研究 (序論)

- B 212. 佐藤信夫・田宮久一郎・*岩崎俊樹・山田慎一・里田弘志 (気象庁・数値予報): 気象庁の 新全球モデル (GSM 89) の予報特性
- B 213. 露木 義 (気研・予報): 延長予報に対する熱帯の 30~60日振動の影響について
- *B 214. 山田真吾・*前田修平・中村和信 (気象庁・長期予報), 露木 義 (気研・予報): 気象庁全球モデルによる 30日予報実験
- B 215. 岩崎俊樹 (気象庁・数値予報): GCM に再現された Lagrange 平均子午面循環の季節変化
- *B 216. 時岡達志・野田 彰・鬼頭昭雄 (気研・気候), *斉藤正彦・高田久美子 (東京電力・技術研): 二酸化炭素倍増に伴う気候変化——気候の変動度, 東アジア地域の気候変化——

C会場 大気化学

座長 近藤 豊 (名大・空電研)

- C 201. *鈴木 款・杉村行勇 (気研・地球化学): 最近の大気中の放射性クリプトン ($Kr-85$) の分布
- C 202. *廣瀬勝己・高谷 祐吉・杉村行勇 (気研・地球化学), 青山道夫 (長崎海洋): チェルノブイリ由来の放射性核種のドライデポジションについて
- *C 203. *大喜多敏一 (桜美林大・国際), 深山暁生 (幹数理計画): ラグランジュ型長距離輸送モデルの感度解析
- *C 204. *鶴田治雄・太田正雄 (横浜市公害研): 降水中の過酸化水素の季節変化
- C 205. 古賀聖治・田中 浩・松永捷司・半田暢彦 (名大・水圏研): 三河湾における DMS の海から大気への移行量
- *C 206. *青木周司 (極地研), 中澤高清・村山昌平 (東北大・理), 深堀正志 (気研・物理), 山内 恭 (極地研), 村山治太 (横浜国大・教育), 塩原

匡貴 (気研・気候), 橋田 元 (東北大・理), 川口貞男 (極地研), 田中正之 (東北大・理): 南極昭和基地における大気中の CO_2 濃度の観測

- C 207. 田端 功・内野 修・水野芳成 (気研・衛星観測): 成層圏オゾンのライダー観測
- *C 208. *岡野章一・田口 真・福西 浩 (東北大・理), 笹野泰弘 (国立公害研): レーザーヘテロダイン分光計及びオゾンゾンデによる大気オゾンの同時比較測定
- *C 209. *田口 真・岡野章一・福西 浩 (東北大・理): レーザーヘテロダイン分光計による大気オゾン全量及び高度分布の観測
- C 210. 鈴木 睦・横田達也・笹野泰弘・秋元 肇 (国立公害研), 松崎章好 (宇宙研), 堀口博司 (宇宙開発事業団): ADEOS 搭載 ILAS の観測ミッション
- *C 211. *林 政彦 (名大・水圏研), 近藤 豊・岩坂泰信 (名大・空電研), P. Aimeidieu (CNRS), W.A. Matthews・P.V. Johnston (DSIR), Helten・Schmidt (): 1990年1月の北極成層圏オゾンの変動——1990年北極オゾン層国際共同気球観測 (CHEOPS II)——
- *C 212. 忠鉢 繁 (気研・物理): 南極昭和基地におけるオゾン全量と成層圏気温との関係 (日々の変動)
- C 213. *近藤幸治 (高層気象台), 岩坂泰信 (名大・空電研), 川平浩二 (富山高専): 南半球オゾン変化と気温変化の Lag 相関
- C 214. 川平浩二 (富山高専), 広岡俊彦 (気大): オゾンホールと平均風の年々変化
- *C 215. *秋吉英治・瓜生道也 (九大・理): Plumb and Mahlman (1987) の渦拡散係数を用いて計算されたグローバルオゾンの季節変動——簡単な2次元モデルによる結果——

大会第3日 (5月25日) 9時00分~12時30分

A会場 いろいろな QBO

座長 田中 浩 (名大・水圏研)

山崎孝治 (気研・気候)

- A 301. 常岡好枝 (気研・予報): 赤道成層圏の準二年周期振動37年間の経過と特徴 (1953—1989)
- A 302. 丸山健人 (気研・予報): 成層圏赤道波強度の年周期変動 (シンガポール: 1961—1989)

- A 303. *廣田 勇・桜井隆博・塩谷雅人 (京大・理): オゾンケルビン波と SAO に及ぼす QBO の影響について
- *A 304. 吉澤宣之 (大分高専): モデル QBO の振動周期のパラメータ依存性
- *A 305. *小寺邦彦・山崎孝治 (気研・気候): 成層圏 QBO: 赤道域 QBO と高緯度 QBO の関係

- A306. *山崎孝治・谷貝 勇・小寺邦彦(気研・気候)
: 赤道下部成層圏の風が北半球冬季成層圏循環
に及ぼす影響に関する数値実験
- A307. *林 則雄・岸 隆幸(気象庁・南極事務室):
QBO からみた南極昭和基地のオゾンと高層デ
ータ(第1報)
- A308. *小池 真・小川利紘(東大・理): 全量オゾン
地上観測データにみられる QBO 変動と不規則
変動
- A309 神沢 博(極地研): 南極域のさまざまな QBO
(準2年振動)
- A310. 関原 彊(東京理大): QBO と太陽活動関連の
メカニズムに関する考察
- *A311. 金谷年展(辨富士総合研究所): 成層圏 QBO,
太陽活動度と天候レジーム
- A312. 上野達雄(気象庁・長期予報): QBO, 太陽活
動と日本の気候
- *A313. *田中 浩(名大・水圏研), 吉沢宣之(大分工
専): 成層圏と対流圏の QBO の結合
- *A314. 隈 健一(気象庁・数値予報): 季節内変動に
現われた QBO
- *A315. *升本順夫・山形俊男(九大・応力研): ENSO
サイクルと QBO
- A316. 渡邊朝生(東北大・理): 西部北太平洋の海面
水温の QBO
- A317. 轡田邦夫(東大・大槌センター): 海上風及び
SST の変動場における QBO・ENSO シグナル
- A318. 安成哲三(筑波大・地球科学): 西部熱帯太平
洋の海水温に見られる QBO とそのグローバル
気候における意味
- A319. *田 少奮(筑波大・院), 安成哲三(筑波大・
地球科学): グローバル降水量に見られる QBO
現象について
- B会場 雲物理・積雲対流 I**
座長 田畑 明(気研・台風)
- *B301. *城岡竜一・上田 博(北大・理): 石狩平野に
上陸した渦状擾乱のドップラーレーダー観測
- *B302. *佐藤晋介・藤吉康志・若濱五郎(北大・低温
研): ドップラーレーダーを用いたトランスバ
ース型降雪雲の研究——形成メカニズムと構
造——
- *B303. *小泉直子(北大・環境), 上田 博・菊地勝弘
・谷口 恭・岩波 越・城岡竜一(北大・理):
北海道羊蹄山周辺のドップラーレーダーによる
降雨システムの観測
- *B304. *篠田太郎・上田 博・城岡竜一(北大・理):
1988年9月23日石狩平野で発生・発達した積乱
雲群の動態について
- B305. *高橋暢宏・上田 博・城岡竜一・篠田太郎(北
大・理), 藤吉康志(北大・低温研): 2台のド
ップラーレーダーによる前線の観測
- *B306. *高橋暢宏・上田 博・菊地勝弘(北大・理):
孤立したエコーにみられる地形の効果について
- *B307. *岩波 越・菊地勝弘・上田 博・谷口 恭(北
大・理): 北海道オロフレ山系の降雨機構——
微気圧変動と対流活動——
- B308. *小西啓之(大阪教育大), 村山昌平(東北大),
掛川英男(筑波大), 遠藤辰雄(北大・低温研),
和田 誠・川口貞男(極地研): 南極昭和基地
のレーダーによる1989年の降水観測
- *B309. 和田 誠(極地研), *越田智喜・武田喬男・劉
国勝(名大・水圏研): 南極域における背の低
いレーダーエコーに関する研究
- B310. 遠藤辰雄・大井正行・坪木和久・藤吉康志・山
田知充・若濱五郎(北大・低温研): 層状雲の鉛
直構造及び雲頂付近の混合過程の研究のための
気球観測準備状況報告
- B311. *劉 国勝・武田喬男(名大・水圏研): 衛星デ
ータを用いた日本周辺海上の凝結水量の分布の
解析
- *B312. *青山 隆・菊地勝弘・谷口 恭(北大・理):
層積雲の雲頂構造——WCRP 航空機観測——
- *B313. 水野芳成・内野 修・田端 功(気研・衛星観
測), 君野珠宏・甲斐憲次(筑波大・地球科学)
: ECLIPS(II)——ライダーによる温暖前線面
の雲の観測——
- *B314. *今 久・中山敬一(千葉大・園芸), 羽生寿郎
(聖徳短大): 関東地方における降ひょう日の鉛
直大気状態
- C会場 接地境界層・小気候**
座長 大滝英治(岡山大・教養)
- C301. 新野 宏(気研・物理): 乱流クロージャーマ
デルにおける特徴長さの予報式について
- C302. *木下宣幸・新野 宏(気研・物理): エクマン
境界層の接地境界層の厚さについて
- *C303. 千葉 修(高知大・理): 海風前線下部での渦

運動の評価(接地気層での観測[V])

- *C304. *遠峰菊郎・引地 功・阿部成雄(防大):三沢飛行場における霧の鉛直分布について
- C305. 萩野谷成徳(気研・物理), 安藤健太郎(海洋センター), 藤谷徳之助(気研・応用), 花輪公雄(東北大・理):熱帯域における放射観測
- *C306. 林 泰一(京大・防災研):大気接地層内の風速変動の空間相関係数の水平分布について
- C307. 近藤純正・*三枝信子(東北大・理):土壌の乾燥にともなう土壌面蒸発の時間変化
- *C308. 安田延壽・*山際龍太郎(気大):大気・植生間の水蒸気交換モデル
- C309. 近藤純正・*中園 信・山崎 剛・渡辺 力(東北大・理):森林の貯熱量の推定
- *C310. 近藤純正・*渡辺 力(東北大・理):植生地における地表面熱収支の評価法
- *C311. 米谷俊彦(岡山大・資生研), Kyaw tha Paw U・Alexander Held (Univ. of California, Davis):植物群落上の乱流特性について (27)

- C312. *文字信貴・鱧谷 憲・小元敬男(大阪府大・農):植物群落内と群落上の乱流変動の相関
- C313. *原菌芳信・清野 裕・野内 勇(農環研):水稲群落におけるメタンフラックスの測定
- *C314. *大滝英治(岡山大・教養), 藤原福一(岡山市役所):海水中の二酸化炭素濃度
- C315. *内藤玄一(防大・地球科学), 佐々木保徳・浅沼市男(海洋センター), 中村秀臣(国立防災センター), 田辺光教(防大・地球科学):航空写真解析による氷海の凹凸分布
- C316. 田宮兵衛(お茶の水女大・文教育):米沢市平坦部の積雪分布
- *C317. 劉 発華(筑波大・地球科学):筑波における接地逆転層の気候学的研究
- C318. *矢内秋生(目白学園短大), 潘 鋪夫(Ban, Yong Bu)(釜山女大):日本海沿岸地域における風と波の呼称——韓国沿岸の伝統的な風位の呼称——

大会第3日(5月25日) 13時30分~17時30分

A会場 気候

座長 上野達雄(気象庁・長期予報)

- *A351. 梅本 亨(都立大・地理):北半球高緯度における冬季気温の Warm-core
- *A352. 王 亜非(筑波大・地球科学):梅雨季におけるブロッキング高気圧の役割
- A353. *上野健一・安成哲三(筑波大・地球科学):地上気圧格子点データを利用した北半球中緯度の低気圧活動の研究(1)
- A354. 山川修治(筑波大・地球科学):温暖年・寒冷年別にみた北半球盛夏季の気候学的前線帯
- *A355. 柳原一夫(気象協会):ファジィ測度による気象解析——月平均地上気温と500mb高度偏差の関係
- A356. *三浦芳敬・上野達雄(気象庁・長期予報):重回帰モデルによる旬平均気温の予想
- A357. *小泉 耕・前田修平(気象庁・長期予報):類似/反類似法による月平均気温予想と長期予報の確率表現
- A358. 篠田雅人(都立大・地理):サヘルの長期的干ばつと大気循環:1960年代後半—1980年代中ごろ

- A359. *谷田貝重紀代・安成哲三(筑波大・地球科学):中国の過去36年間(1951~1986)の気候変動
- *A360. 三上岳彦(都立大・理), P.D. Jones・K.R. Briffa (East Anglia 大・気候):北半球における冬季の気温偏差場・500mb面高度場・海面気圧場の長期変動特性
- *A361. 立花養裕・若濱五郎(北大・低温研):気温及び降水量の季節変化と気候変動
- 座長 安成哲三(筑波大・地球科学)
- A362. 下田直樹(京大・理・気候):COADSの海面水温データの系統的誤差の補正
- *A363. *山元龍三郎・西 憲敬・角野有香(京大・理・気候), 星合 誠(愛知学院大・教養):海上気温の温暖化傾向
- A364. 角野有香(京大・理・気候):20世紀後半の長期的気候変動(序報)
- A365. *新田 勃・木村吉宏・藤村弘志・上野達雄(気象庁):大気・海洋の長周期変動
- A366. *和田 誠・川口貞男(極地研):大気中の固体凝結水量, 液体凝結水量, 水蒸気量の見積り(2)——南極昭和基地1988年の特徴——
- A367. *榎本浩之(北見工大・一般教育), 大村 纂

(スイス国立工科大・地理)：南極の海水分布の季節変化と大気の半年周期について

- *A368. 榎本浩之(北見工大・一般教育)：最近100年の南極の積雪涵養量の変動について——多点の水床ボーリングコアを用いた気候研究——
- A369. *星野常雄・長尾 隆(㈱サン気象調査)：CO₂の深海底への移動による陸上生態系の変化
- A370. *長尾 隆・星野常雄(㈱サン気象調査)：CO₂の深海底への移動による海中生態系の変化
- A371. *大野久雄(気研・衛星観測)，大沢和裕・阿部世史之(気象衛星センター)：全球降水気候計画アルゴリズム国際比較実験(1) その概要
- *A372. *大沢和裕・阿部世史之(気象衛星センター)，大野久雄(気研・衛星観測)：全球降水気候計画アルゴリズム国際比較実験(2) 毎時 GMS 赤外データから前線性の降水量を見積もるアルゴリズム

B会場 雲物理・積雲対流II

座長 遊馬芳雄(弘前大・理)

- B351. 佐藤 昇(大阪府科学教育センター)：低温型雪結晶の成長実験
- B352. *菊地勝弘・播磨屋敏生・上田 博・谷口 恭(北大・理)，桜井兼市(北海道教育大・旭川)：低温型雪結晶と極域エアロゾル(グリーンランド・プロジェクト：その1——概要——)
- B353. *播磨屋敏生・菊地勝弘(北大・理)，桜井兼市(北海道教育大・旭川)：低温型雪結晶と極域エアロゾル(グリーンランド・プロジェクト：その2——霰の embryo——)
- *B354. *権田武彦・関口智博・三浦博隆(東京理大・理工)：小さい過冷却度で成長する氷結晶のモルフォロジー
- *B355. 黒田登志雄(北大・低温研)：擬似液体層でおおわれた氷結晶表面の気相成長機構——拡散過程を考慮した VQLS 機構——
- *B356. *原田素子・菊地勝弘(北大・理)：多結晶の初期氷晶の成因について
- *B357. 志尾 弥(北海道教育大・物理)：雪結晶の昇華と生長
- B358. *古川義純(北大・低温研)，J. Hallett(ASC, DRI)：ハローの発生機構の実験的研究

座長 水野 量(気研・物理)

- *B359. 石坂 隆(名大・水圏研)，鶴田治雄(横浜市公害研)：雲粒の粒径分布と雲水量の観測
- *B360. *水野 量・松尾敬世・村上正隆・山田芳則(気研・物理)：冬期日本海沿岸における北西季節風時の降雪粒子の特性
- *B361. *金村直俊・播磨屋敏生(北大・理)：降雪粒子の雲粒捕捉成長過程の地域特性——内陸部と海岸部の比較——
- B362. 水野 量・*松尾敬世(気研・物理)：雪雲内の雪粒子の成長に関する数値実験
- B363. 松尾敬世(気研・物理)：融解層の形成に関する数値実験
- B364. 村上正隆・*水野 量・松尾敬世・山田芳則(気研・物理)：対流性降雪雲の微物理構造(2) Water content と数濃度の鉛直分布
- B365. *D.A. Short・古津年章・中村健治(通信総研)：A Comparison of Rain Drop Size Distributions During Heavy Rain in Kashima, Japan and Darwin, Australia
- *B366. *岡崎賢治(北大・環境)，播磨屋敏生(北大・理)：客観解析で示された雨滴粒径分布の特徴
- *B367. 北川信一郎(中央防雷)：日本海沿岸の冬季雷の電荷分布と放電活動
- B368. 道本光一郎(防大・地球科学)，高島昌夫(北陸電力㈱・技術研)：車両搭載電界計による冬季雷雲下の電界観測(第1報)
- *B369. 道本光一郎(防大・地球科学)：レーダエコーと発雷に関する研究(第2報)

C会場 エクマン境界層

座長 大河内康正(八代高専)

- C351. 中村晃三(東大・海洋研)：放射と対流で平衡になった雲を含む混合層の数値実験 その2：混合層モデルによる場合
- C352. 藤原滋水・木村竜治(東大・海洋研)，内藤成規(気象衛星センター)：済州島風下のカルマン渦列の発生過程(第4報)
- C353. 木村竜治・藤原滋水(東大・海洋研)，内藤成規(気象衛星センター)：済州島風下のカルマン渦列の発生過程(第5報)
- *C354. 栗田 進(気研・応用)：大気中のカルマン渦は冬の季節風時にのみ発生するか？——その事例解析——

- C355. *村山信彦 (駒沢女短大), 木村富士男 (気研・応用): 山岳風下の渦列雲発生条件の例証
- *C356. *山本浩之・児玉安正 (弘前大・理): オホーツク海気団の冷却に及ぼす下層雲と海洋の役割 (1988年7月の事例解析)
- *C357. *松浦 馨・上田 博 (北大・理): 札幌市における低気圧接近時の大気境界層内の風の構造
- C358. 蒲生 稔 (公害資源研): 混合層上部に出現する積雲 (その6)
- C359. *水野建樹・吉門 洋・近藤裕昭 (公害資源研): 関東平野にできる逆転層と大気汚染——西部山岳部の影響
- *C360. 大河内康正 (八代高専): 一地点観測局の時系列データを用いた気象日変化の予測について (第2報)
- C361. 佐橋 謙 (岡山大・教育): 係留気球による風速とパイボールによる風速との比較
- 局地循環**
- 座長 瀬上哲秀 (気象庁・数値予報)
- C362. 余 偉明 (筑波大), 植田洋匡 (国立公害研), 河村 武 (筑波大): K-e乱流モデルを用いた海陸風の重力流の数値実験 その3 Internal gravity wave and cut-off vortex
- C363. 近藤裕昭 (公害資源研): 谷風と海風の合体過程と大規模海風の発生について
- C364. *斉藤和雄・猪川元興 (気研・予報): 山越え気流における地表摩擦の影響
- C365. *水間満郎 (京大・原子炉), 田中正昭 (京大・防災研): 京都盆地における局地風の数値シミュレーションの考察
- *C366. *力石國男・飯田秀重 (弘前大・理): ヤマセ霧の発生に対する海面水温の影響
- C367. *力石國男・佐々木有子 (弘前大・理): ヤマセと海陸風
- C368. 森 征洋・長谷川 忍 (香川大・教育): 海風の型と気圧場との関係について——多度津の場合——
- C369. 横田寛伸 (大阪管区): 瀬戸大橋での風の特性
- *C370. 藤部文昭 (気研・予報): 関東平野の coastal front の気候学
- *C371. 蒲生 稔 (公害資源研): 関東平野の混合層 (その8)
- C372. 山澤弘実 (原研): 数値モデルを用いた北関東沿岸部の風系解析
- C373. 瀬上哲秀・*大野木和敏・山城幸浩・加藤寿史・柳野 健・田中省吾 (気象庁・数値予報): 一層モデルによる地上風の数値実験 (2)
- C374. *萬納寺信崇 (気象庁・数値予報), 大野久雄・鈴木 修 (気研・衛星観測): 気象庁 10 km モデルによる筑波のシアライン